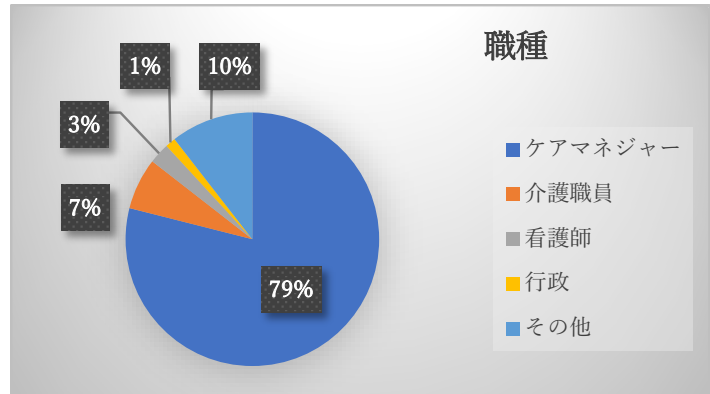


宮城県ケアマネジャー協会
令和元年度 ケアマネジメントセミナー 振り返り集計結果

『認知症があってもなくても、より良い関わりのために』

職種

| | |
|-----------------------|-----|
| ケアマネジャー | 120 |
| 介護職員 | 10 |
| 看護師 | 4 |
| 行政 | 2 |
| その他 (包括、社会福祉士、薬剤師) | 16 |



講演・ビデオ演習をとおして、思ったこと感じたこと

1. ～礼儀と尊重～利用者の権利と支援者の義務～についてどのように感じましたか？

- 改めて礼儀・尊重を考えさせられました。「おはよう」と挨拶していたり反省です。自分が年を取ったらと考えさせられました。
- 本人の権利擁護、人権、守られていません。閉鎖的な空間で会話もキャッチボールにならず誰も鶴さんの気持ちに気づこうとしない事が怖さでもある。人生の先輩でもある方に尊敬や温かい眼差しはないのだろうか。
- ご利用者様は尊敬してもらって当たり前ということを再認識できました。ビデオの中でつい日常的に使ってしまいがちな「～こちに座って」等の命令のような口調、本当によくないのだと感じました。問題行動と呼んでしまう前に、きちんとその理由について考える事、また礼儀あるかかわり方が絶対なのだと思います。尊重されない事で問題と言われるような行動になってしまう可能性も大いにあると感じました。
- 無意識のうちに高齢者に対しての礼儀や尊重の大本が薄れてしまう。つるさんのビデオを観て、自分も反省したし、こうあるべきではないと感じた。まず人として目を見てその人の話を聞く姿勢、その人の人生を思って接する事で礼儀と尊重は生まれるのではないのでしょうか。
- 慣れで行ってしまっていた事を振り返る機会ができて良かったです。礼儀と尊重を一人ひとりに当てはめて考える必要があると感じました。人によっては普通の事かもしれないあらゆる視点から見て行かなければいけないと思いました。

- ビデオの内容は本当にいつもあるケアの風景だっと思います。自由にさせていただくだけが尊重ではなく、それには必ずスタッフのフォローが必要だと改めて思いました。自分を理科してくれて、支払った料金の対価としてよいサービスを受ける事が出来る権利というのを忘れていた部分もあり、再度気づかされました。
- その人を見て、認めて、尊重していく、当たり前権利を侵害しないように自分を含めて周囲のスタッフへも話していきたいと思いました。
- 自分の事は自分で決めて、毎日生活しているのに、認知症になったとたん周りがなんでも決めたり、決めつけたり、本人の気持ちや意思をないがしろにする。どんな状況でも本人の視点で物事を考えるようにしないと、礼儀も尊重もあり得ないと思う。
- その方の生き方を受けとめる事や、価値観、援助者としてその方を敬う気持ちを持たなければならぬと感じた。
- 人としてかわる事が大事だと考えます。認知症があるから行ってもわからないではなく、その人に会った対応をしていく事で理解していただくことがあると思えます。しかし、実際の現場は人で不足等があり、深くかわる事ができないという現状もあると思えます。
- してあげる、してもらっているという無意識の中でお互いの関係ができてしまっている事があると改めて気づきました。普段の自分の支援の仕方、関わり方、振り返りたいと思う。
- 利用者を知る、これが大切だと思う。本人のできる事できない事バックグラウンド、心身の状態等、できなくなったことに目を向けるのではなく、できる事どうしたらできるようになるかを探り、チームで支援していく事が大切かと思う。
- 声掛けや話し方でその人にも不安や混乱が起きてしまう。きちんと向き合うことが大切。
- 人として相手に接するときは礼儀と尊重は心で思いながら生活しているつもりですが、改めて人の行動を観て自分もあるかもと思う行動がありました。仕事での慣れが原因なのか、自分でもわからないところなので、家に帰って考え、そして月曜日には事業所内で考えてみようと思えます。
- 利用者を障がいや認知症によりできなくなった人と決めつけず、できる事に着目して、人として当たり前の礼儀を持ち関わる事を意識していきたい。日ごろの関わりでも、本人の想いを聞き出す努力はしているつもりだが、うまく言葉にでさせない方の思いに寄り添う（汲み取る）工夫も大切にしていきたいと感じた。
- 自身が認知症になった時にされたい対応をするという事が基本の考え方として接する事が大切だと感じた。
- どんな状況になっても（認知症が進んでも）人生の先輩として経緯を払う事を忘れずにする。
- ビデオを観てつるさんの事に対しておこなっていましたが、スタッフの行動や言動の

見直しがされていなかった事が残念に思う。つるさんはこのグループホームに必要なんだよと感じなかった。

- 当たり前にある礼儀と尊重。当たり前を忘れてしまう。思い出す。繰り返し。
- 自分では気を付けているつもりですが、ことに相手が認知症の方の場合、本人の言葉に耳を傾け事はすくなかったのではと思い直して反省する点が多かった。しかし、現実には当事者の認知のレベルにもよるが、限られた時間の中でケアをおこなったり、利用者と話し合いをもち、落としどころを見つけるのは難しいと感じている。(だから高齢者の車の事故も減らないのでは)
- 支援者として利用者が、どう関わっていけば穏やかで落ち着いた子持ちで過ごせるのか、引き出していかなければならない。利用者を支援者の物差しで見えてはいけなし、支援者の思うようには行動してもらおうと思っはいけない。利用者きちんとわかるように説明をして自己決定の権利を尊重する。
- 支援者目線で支援する事が当たり前のように仕事をしてしまっている。利用者さん目線、その立場に立って対応していく、当たりの事ができていない、気を付けていきたい。
- 慣れと信頼関係は別物。言葉使いと行動は伴うものと感じた。常に礼儀をわきまえ利用者を尊重する姿勢が大切と感じた。
- 当たりの事、大事な事だと思います。一人の人として話をする事の意識や姿勢を忘れてはいけないのだと感じました。認知症の人だからとレッテルを貼らず、きちんと話を聞く事、話を聞く態度。本人のできる事を長く続けられるようなお手伝いをし、本人が大変だと感じているところを様々な方法で補い生活していけるようにしていかなければと感じた。
- 普段自分が利用者に対して十分な礼儀と尊重を持って接する事ができていたのだろうか、振り返る事ができた。
- 日常の中である事を客観的に見て、いい対応をしてもらえていない事がわかって、自分の職場に戻ったら、それに気づく事ができるか、考えないといい関わりができないですよ。認知症があったとしても安心して生活できるように自分も関わっていかなければと身が引き締まる思いです。
- ビデオに関しては利用者様の話を聞く時間が取れなかったのかと感じた。尊重されていなかったのではないか。
- 相手をしていない。本人の居場所(安心感)を持たせるための時間。
- 施設で常にありがちな光景だと思いました。業務に追われてはやはり、職員側の都合だと思うので、困っている本人をしっかりしていきたいと思いました。
- 本人の言動を理解して相手から尊重されていると思われるような接し方をしていきたいと感じました。
- 利用者に対しての接し方について、向き合っ話をする事の大切さを感じました。上か

らの目線なのか、親しみを持った接し方なのか、です、ます、が全くなく普段の自分の利用者への対応がどうなのか振り返る事ができました。

- つるさんの動画を観てつるさんの立場になってみて、ショックを受けました。つるさんはいろいろな不安を一杯訴えていたが、スタッフは日ごろの業務に追われ何も見えていない事にショックでした。つるさんの立場になれたビデオを観たのは初めてだったので、施設の廊下から全てすごく怖い世界に見えました。とても不安になりました。本人の立場に立つ重要性を更に認識しました。

- 客観的立場で観れば安易に気づいている事でも、当事者（ケアする側）となると見えてこない事が多々あると改めて感じた。こうあるべきだという姿は分かっているも常に意識することの重要性も分かっているつもりでも、実態としてやり続ける、常にそうである事の難しさも感じた。

見本となる人の存在と共有しアンダーコントロールする事の重要性も理解した。

- つるさんが安心して過ごせる居場所になっていない気がする。言葉がけをもう少し丁寧におこなうとか、できる事、困難になってきている事をできていないと思った。常に不安な様子が見られた。寄り添う支援も欲しいと思いました。
- ビデオ演習を観てタメ口で単語でお話されているのを観て、接遇をきちんとしていきたいと思った。利用者様、家族様と関係性を良好に保っていけるようにしたいと感じた。
- 特別な事をするのではなく、利用者を大切に思う気もちが大事である。自分たちは利用者の利用料からお金をもらっているのを忘れないようにする。認知症の人は自分の事をどう思っているのか感じとる。
- 対応の仕方によって本人がさらに混乱してしまう状況がビデオを観て良く分かった。尊重という木庭には本人を理解する事、本人のできる事を見ること、きちんと対応する事、否定せずに肯定する事など様々な意味があると感じた。
- ついつい忘れてしまいがち、改めて見直す必要がある。
- 当たり前前に接する事がいつの間にか支援する側、される側の力関係性が成り立つと、忘れてしまうのかと思いました。映像に出てくる職員は助けてと思っていると話していましたが、入所して二年もの間なぜ気づかなかったのかと驚きます。
- 基本的な事だがケアマネは仕事として支援し、料金を頂いている。しかし認知症だからわからなくなってきているからと、支援者側の意識と本人抜きの話しあいがある。改めて人対人なので否定せず、いい関わりができるように、なるように関わらせて頂く事に気づきました。
- やっているつもり、一生懸命取り組んでいるつもりだったが、利用者の本当の訴えに耳を傾けていない事に気づかされた。認知症の高齢者の良き理解者、代弁者になる事が私たちの（私の）役割だと感じました。
- 本人を主体で介護が行なえていない。本人の目線で行えることの重要性を感じた。

- 普段普通におこなっている事が、自分がこの場に立っていたり、できない人と決めつけていたりする事があるが、その人を知ろうとする事で、自分よりも先に生を受けて色々な経験をして、今そこにいる人に対してはやはり敬うべきものだった。自分もケアされるのであれば礼儀があつて今までしてきた事を認め、今できなくなった自分だけをみられるのではなく尊重してもらえるケアを受けたいと思う。
- その人の事を、大変さをわかろうとする努力し、一人ひとりに合った対応を考える。大切にされる権利がある人なんだと改めて気づき、自分自身を振り返り反省があつた。今後の意識を変えようと思った。
- 本人の問いかけにきちんと対応していない。訴えに対してきちんと向き合っていない。尊重しているような声掛けはしていない。つるさんの行動について、認知症の主症状として受け止めているように思える。行動が周辺症状である事を理解できていない。理解しようとしていない。
- 日々の支援の中で丁寧に関わる、当たり前な事を忘れてしまっている事があると感じた。人生の先輩として、一人の人として、丁寧に関わっていきたいと思う。普段の自分の関わりでその方自身が大切にされていると感じていただけているだろうか。
- 普段意識せずに利用者に関わっていると、知らず知らずに介護してあげているという気持ちで関わっているスタッフが多い。利用者本人の障害を理解しどのように支援すると本人の能力を引き出し、生活の質の向上につながるか、意識的に関わる事から始める事で徐々に普段でもよい関わりができると思う。
- 普段の自身の利用者に対する関わり方に改めて反省させられた。ビデオの中のスタッフのような関わりを疑問に感じる事もなくおこなっていたのではないかと。自分の言動を振り返りました。
- やってあげている、してもらっているという感覚が当たり前になってしまっており、改めて申し訳ない気持ちになった。何をしたいのかそれをする為に、何を手伝ってあげられるのか。改めて考える必要があると思った。プラン作成時必要性という便利な言葉で本人の意向や権利を奪っていないか、もう一度見直す必要があると思った。
- 利用者との接し方を自分自身で振り返ると、礼儀と尊重という事を意識していたかと考えます。普段できていると思っていましたが、より一層意識を高めたいと思います。
- 人生の大先輩に対して常に尊重をしながら接していたと思いましたが、ビデオの観て自分を同じ様な対応をしていたのではないかと不安なってきました。
- 当事者を理解していたつもりでも、認知症があつてわからないと大きく括ってしまう事がある。こういう障がいでは何がどれだけできるかと、詳しく考えていかないと適切な対応にならない。専門職として恥ずかしいなと思う部分がありました。自分自身が。
- その方個人対しての礼儀（うわべだけの言葉ではなく）を持って対応しているか。利用者の目線でいるのか。（介護者目線でなく）利用者目線、家族目線、介護スタッフ目線、見かたが全然違い、本来の問題点からズレてしまう事が理解していく事が重要と思

いました。

- 普段している事を考え、見つめ直す事ができた。なぜ？おかしい？何か変を考える事はすごく大切である事を感じた。
- ビデオを通して入居者様へのスタッフの対応（声掛け等）関わりで、制止しない事と放置は違う。役割としてその障がい（慢性的なら補う）生活のクオリティを上げる尾が大事。
- 映像を観てグループ内で同じイメージで話合いができてよかった。礼儀と尊重、権利と義務を忘れて対応しがち、してしまっている時があったかもしれないと気付く。グループホームに限らずケアマネジャーに限らずこの業界に関わる全ての人が今一度見直すべきと感じた。大事にして対応しなければ、改めてアセスメントをしっかりと行わなければと感じ大変勉強になりました。
- 客観的にみると当たり前で理前の言葉使いや態度等できていないと振り返り反省です。支援する側とされる側に分けてみてしまう。慣れや世話をしている上と錯覚し、立場の逆転から礼儀と尊重が欠けてしまっていると感じました。
- 実際はつるさんのビデオは途中から拝見。ご本人の大変さを良く理解できない。介護現場で3か月（特養）介護職員を経験した現在はビデオのつるさんの事が参考になり、つるさんらしい「生きがいを見つける工夫」そして介護現場の職員も「考える介護」「工夫ある介護に取り組んで」いきたいと発見できて良かった。
- 利用者さんの出来ない事を見つける、あるいは、不安の原因を利用者さん側にあるとの先入観がある事で、利用者さんを弱い人と見やすい。一方的な支援になりやすいので一呼吸して対応が必要と感じました。（出来る事を考える）
- 介護職をしているといつのまにか、やってあげるという姿勢にいつのまにかかなりがちである。（職員の言葉使い等から）人生の大先輩である事を忘れず、接していかなければならない事とより強く思いました。
- ケアマネは仕事として利用者はお金を払って、サービスを受けておりケアマネは専門性を持って、対応しなければならず、認知症であってもなくても本人の意思や意見を尊重しなければいけないと再認識しました。本人を飛び越えて家族やその周りの人達で話が進んでしまう事があり反省しています。
- 自分でも実際、利用者に対して言葉づかいや態度が馴れ合いになっていると感じる事があります。親しみを込めると思っているのですが、相手にとってはただ不感なのを我慢をしているのかもしれない。先生からお話がありました「利用者、職員わけへだてなく」礼儀と尊重を持って、接することが出来るよう心がけていきたいと感じました。
- 仕事では利用者様との関わりで相手の気持ちに配慮し、訴えを受け止め・・・と心がけていました。ビデオの中のスタッフはスタッフミーティングでは本人のために話し合いを重ねていながら実際の業務ではおろそかになっていました。ビデオから私自身本人様に寄り添っていると思っているのは自分だけであり、実際はできているんだろう

かと考えてしまいました。

- 上から目線、受容がない、スキンシップがなく、遠くからの命令だけ。自分達はふだんどうなのかふり返りの場になった。こちら（支援者）の都合で物ごとが進んでいた。
- 認知症になってもできる所が沢山あることを考える、話し合うことが大切だと感じた。関係性、理解がケアに大きく左右することを感じた。
- ビデオでのケアは日常的に施設内で行われている事だと感じました。各スタッフの自覚にもよりますが礼儀と尊重のある態度で利用者に接して行くことは難しい事だなと感じていますが、今後ますます高齢者が増え認知症の方が増えるに当たって、認知症のある方に対して個人の尊厳を重んじる態度で接して行く事は社会全体が過ごし易い生き易い社会になる事に通じると思います。
- 言葉づかいについての研修はホームでも行いますが、なかなか改善できていない現状です。礼儀と尊重についても普段から話し合っていくことが必要だと思いました。まずは利用者の権利という点をよく理解していきたいと思います。それによって不適切なケアがなくなればいいと思います。
- 相手を理解しようとするためにはまず1対1で向き合い話し合うことが大切だと感じました。こちら側の視点ではなく相手の視点で考えるよう訓練し続けるようにしたいです。
- 他者がやっていることの良し悪しは気づくが、自分がやっていることの気づきはどうかと感じた。最近感じたことで、利用者様に対して、やってもやっても、利用者が権利を主張しているように感じたり、自分の話が屈折レンズを通して伝わっている様な感じを事があった。その時はやはり自分は悪くない、大変な利用者だと感じたが今は理解する事が足りなかったのかもしれないと思っている。
- 私たちが業務を行ううえであたり前の事。あたり前であっても、慣れ等からおろそかにもなる事が、常に自分自身を振り返ることも必要だと感じました。また、自分では出来ていると思っていても、もしかしたら利用者さんにとってはそうでないこともあるかもしれない。
- ひとり1人の利用者を見て知った関わりをする事が必要となる。その対応こそがその人への尊重した関わり方につながる事となる。私達、支援者は、その人の能力評価（出来る事、出来ない事）を上手に行う事で残存能力の活用となる事を改めて確認できた。
- 利用者の方々に対し、慣れあいではなく、適度な距離を保って人生の先輩であることを忘れず接して行きたいと思います。自分自身の感情に左右されるのではなく、余裕を持って専門職であるプライドを忘れずに、関わり続けたいと感じました。
- ごく普通のあたり前の関わり合いをしていくことが大切なんだと思いました。自分がされたら嫌なことは、相手もそうかもしれない。良い関わり合いをしていきたい。
- 本人の意向を尊重するためには本人の話を聞く事、できることできないこと、症状、障害を知ることが必要。知るために礼儀を重んじることが大事と感じた。

- 日常の中でも、あたり前に行っていることを利用者にも行っていかなければならないと、改めて思う。人と人の初めの関わりは、礼儀（あいさつ）誰でも自分のことを分かってほしいし、嫌な事はしたくない、してほしくないと言う思いがあり、それを尊重してもらいたいと思う、を、私たち専門職は必要なのだと思います。
- 本人が敬語でスタッフがため口。よく見る光景だが、じっくり考えると異様、おかしい。専門職として、本人の支障やその原因を考えること、更には出来る事を（細分化）して見ることが大事だと思った。担当者会議、本人が出席しているにも関わらず、伝わっていないのでは？と感じた。
- つるさんは自分の思いつきのままに行動しているが、職員が馴れ合いになってしまい、日常の行動に疑問も持たず、つるさんの思いに寄り添っていない。つるさんの欲求が満たされないため症状は更に悪化してしまう可能性もある。職員が、つるさんが入居してきた当時に戻って、言動の一つ一つにていねいに対応していく必要があるのではないかと思った。日々の業務の多さはわかるが、仕事を楽しみながら行うためにも、まだまだ一人で出来る事を続けられるように支援して行く必要があったのではないかと思った。職員がどうしても優位になってしまう傾向があり、いつまでも初心を忘れることがなく、つるさんと同じ目線で、何を考えているのかを導き出しながら対処しなければならないと思った。
- 1回目、2回目のビデオの内容の見方の違いを改めて考えることができて良かったです。我々職員目線での声かけや、コミュニケーションの取り方では、認知症の方へのケアとしては不十分だと感じ、病気をよく理解し、自分だったらどのように扱ってほしいかなどをよく考えさせられる映像だったと思います。
- 高齢である利用者には言葉づかい等、礼儀と尊重には注意してきたつもりだが改めて事例を見て、自分だけではなく周りの関係者とも考えていく必要があると思った。
- 利用者本人の目線、ケアする側の目線から考えることが出来ました。本人の能力をきちんと見極めて対応していく必要があると感じました
- 尊重と簡単な言葉であるが、その人を十分に知った上で、その人に合った対応をすることが尊重になると思いました。業務で忙しくなると流してしまう事もあるので、1人1人の声を聞き逃さず、利用者さんと向き合って行きたいと思います。
- 目の上の人、人生の先輩、自分の父母、祖母として対応。礼儀はあたり前のことだがよく理解して言葉を使う。仲良くなったから馴れたからではダメである。
- 利用者に対して、どのスタッフもが「礼儀と尊重」を持って関わる事が出来るとういのだろうと感じた。ただし、いくら「言葉」や「接遇」が丁寧でも心からそう思わないと、何もならないのではないかとも思う。スタッフが身に付けることが大切だと思いました。
- その人に合わせた対応を行う。本人の出来ることや、出来ないことなど、きちんと見ながら接すること。本人はどうなのか、本人をみて、本人と向き合う事が大切だと感じま

した。

- 全てが介護を提供する側の都合から始まったの関わりで、礼儀にも尊重にも都合よく理由をつけていると感じる。本当に意識しないとあっという間に良く関わっていくことが出来なくなると感じた。
- 利用者の権利を尊重する、支援者の義務を果たすためには、まず利用者の能力を把握出来なければいけないと思いました。認知症であっても、できること、判断、決めれることをきちんと見て、話し合うことが大事だと思いました。
- 利用者が主体であること。利用者の生活の支障を理解すること。(支援者側の支障ではない)生活の支障の原因を理解すること。本人と今後の生活について話し合うこと。
- 常日頃の自分の行動をふり返り、明日からの支援につなげられるようにしたいと感じた。対人援助は対象者がいる、そのためには、まず礼儀と尊重が基本となる。人としても大切なことと感じた。
- トラブルとなる行動を都度止めていたのをやめ、逆に突き放す対応に変わったとの理由が分からないが、話し合い(職員同士の)の中で出たきつと最適な良案だった結果には残念に思った。人手不足の施設も多い中、在宅でも家族の対応も含め、認知症高齢者の居場所作りとして、寄り添い出来ることを探す必要性を学んだ。
- 利用者が主体であるという事を確認した。本人を尊重するためには、当事者を理解しようと努力すること。生活の支障の原因を見ること。当事者のことは当事者と話し合うこと。
- 自分の対応も、言葉づかいは丁寧かもしれないが、言い換えれば命令であったり、こちらの都合の良いように操作してしまっていたと思う。言葉づかいを単に丁寧にすれば良いというものではなく、きちんと本人を見て、本人と向き合い、本人と話し合う事。そして本人の事を少しでも理解しようと努力することが支援者として大事である事を学びました。
- 認知機能が低下した高齢者は、基本的な人権を侵害されやすい立場なのだと、改めて感じるとともに、支援をする立場の人間は、今回のような研修が定期的に行わなくては、ならないのかなと感じました。
- 本人の能力を評価し、出来ること、出来ないことを把握し、本人を尊重して、支援者として関わって行かなければならない。認知症で何も分からない人ではなく、その人の出来ることを見つけていく。信頼関係が出来ているからと礼儀を疎かにしてはいけない。ケアマネとして、現場にも目を向けていきたい。
- 親しき仲にも礼儀ありだと思いますが、親しみを込めているつもりが、見下してしまっている事に気づいた。理解しやすい言葉、イコール、子供に話かける様に話すことではない。こちらが礼儀をもって接すれば良い。
- 利用者様が自分らしく生きるための権利であり、支援者として、権利を守るのはあたり前の事であると思っていた。自分が支援者として、関わっている利用者様に対して義務

を推行することは、しっかりとしたアセスメントを取り、プランを作成し、礼儀として行うべきだと思う。今後も一段と引きしめて行動していきたい。

- 認知症の理解や能力、どのような生活をされてきて、どんなことが好きなのか、それを分かろうと努力する事。困った人扱いをするのではなく、本人にとって何が大変になってそういう行動になっているのかを考える事が大事。認知症を患っても、本人が出来る事があって、また何かを補うことで今までやって来た事を本人がストレスや負担なく行えるように提案して行くことが大切。
- 普段の利用者、家族との関わりで、自分は気を付けていても、周りから見て、しっかりと対応出来ているのかどうかは分からない。時々、振り返ることで、気を引き締めて行くことが出来ると感じた。相手を尊重することが、支援して行く上での基本となると改めて思いました。
- 無意識に言葉づかいや態度が、礼儀と尊重に欠けてしまっていたかも知れないと思った。自分のことは自分で決めることを普通に出来るように支援したい。
- 本人が快く過ごすことの出来る言葉の使い方。相手の動きの一部だけ見て判断する事なく、寄り添う姿勢を忘れない事。視線を合わせる、ゆっくり具体的（言葉や視覚で伝える）に伝える能力を身につける。
- 自分たちの仕事として、どうしても、利用者を見てやっていると思っている所が、多くある様に思う。もう一度しっかり、利用者と向き合い尊重できる様にして行きたいと思った。
- 認知症があっても、一人の人生の先輩として礼儀と尊重を持つことが大切である。認知症になっても、利用者には権利があり、支援者はその権利を大切に、生かせるように支援する事が大切である。
- ”礼儀と尊重“本来であれば、当たり前に出ていなければならないことなのに思い返してみると、ほとんど出来ていなかったと反省しました。利用者のためと思い、行なったことが、実は全く尊重していなかった事になってしまう為、怖いとも思いました。もっともっと礼儀と尊重を意識しなければならないと思いました。
- 支援者として、その人の疾病を理解することがまず、必要だと感じました。疾病を理解できれば、その人に対する接し方や態度も変わると思います。
- かかわる側の当たり前を利用者に押し付けている場面が多かったと反省。
- 認知症の理解を深めて行く中で、不安や混乱している状況の把握を、しっかり捉えて行くことが大切だと感じました。支援する側の上から目線になっている現場も多くあり、その方の立場になって考える力を養って行きたいと思えます。
- 日々業務に追われると、言葉づかいも悪くなり、相手を押さえつけようとする職員も見かけます。物事を忘れてしまっても、出来なくなって人の手を借りなければ生活が送れなくなっても、人として守られている、持っている権利がある、という事を他の職員にも伝えていきたい。自分自身も、もう一度関わり方について見直していきたい。

- 先入観で、普通に接するという事が出来なくなってしまっている事に気づいた。支援が必要な状態であるからこそ、専門家の支援が必要であるという事を実感した。
- 慣れが生じて相手に対して、礼儀と尊重が薄れていたため、自分の接遇を振り返り反省した。
- 普段、利用者に関わっている中で、馴染みの関係になるにつれ、馴染みが馴れ合いになっていた事に気づかされた。利用者の権利を守るために、礼儀や尊重を常に頭に入れ支援をいていきたい。
- 目上の方に対して、丁寧に接するのはあたり前の事だと思った。(社会において)
- ビデオを見て、つるさんの話を聞かずに、スタッフの思いだけで行動している様に感じた。つるさんの認知面で何が出来て、何を補わなければいけないのか相手を理解する必要があると感じた。認知症があるから問題なのではなく、対応を合わせる事でその人らしく生活が出来ると感じた。
- 本人を理解し、何を求めているのか、その人にとっての良い支援とは、介護スタッフが決める事でもなく、仕事をしやすい様に誘導するものではないと感じた。
- 本人を理解しようとする気持ち、何が出来ないのか、出来ることは何なのか、見る事の大切さ、やってあげる、支援してあげるという、上から目線ではなく、やらせて頂くという気持ち、毎日の業務の忙しさが優位に立ち、忘れがちであると感じた。
- 常に忘れてはいけないと思いました。良いふり返りの機会となりました。まずは、認知症があってもなくても本人と話し合うことを忘れずに・・・
- 認知症について、対応について、サービスを提供する側が、しっかり勉強出来ていない。普段のケアマネジメントの中で、認知症について、家族に理解していただく事の大変さを感じる。時間がかかるが、しっかり伝えて行く事で理解していただける様に努めている。認知症の方の理解し本人を交えて行う事は内容によっては難しいと思うことがある。
- 日頃から「本人が困っていること」よりも「家族、職員が困っていること」が中心になってしまっている事に改めて気づかされた。しっかり受け答えが出来る方からは希望や意向を聞き取ることはしているが、認知症でうまく答えられない方からは、じっくりと時間をかけて聞き取る、ということはしてなかったと思う。映像を見て、気づかされることはとても多いが、日頃は気付かずやっているとしまった。
- 本人と支援者が対等な関係になってしまっている為に、「指図する」ような、言葉づかいになってしまっている。出来る事を見つける事をせずに「支援者にとって面倒な対応をとる人」との見方をしてしまっている。本人のいない所での話し合いをしてしまっている。「助けて」というメッセージにしっかりと対応出来ていない。
- 礼儀と尊重、利用者一人一人の能力を見ていく事。言葉づかいにしても、慣れて幼稚な言葉で、やってあげている感から下に見て扱っていたか、という、自分の対応を考えさせられました。その人が出来る事、出来ない事、どう感じているか、その生活を考えて

いる事が大切と改めて感じました。

- 常に意識的に、心に留めておく事が必要と感じた。特別なことではなく、普通に人として尊重すること、目上の方としての礼儀。
- ビデオの対応のように無意識に同じようになってしまうのではないかと考えさせられた。自分だったら、どういうふうに対応してもらいたいか、常に意識をして対応して行きたい。
- 職員目線ではなく、本人目線で考える事が大切だと感じた。関わる職員等の対応も、今後、十分考えていきたい。
- ご本人を知って、こちら側の視点ではなく、そのままのご本人を受け入れる事の大切さを、理解する事が出来ました。丁寧過ぎるのも違うということが分かりました。
- 基本の基をないがしろにしている自分の姿を反省しました。
- 利用者がどのような状態であっても、人として礼儀と尊重という態度で接して行きたいと、思っている現実の場面では意識をしてケアを行っていかないと難しい。認知症と診断されている利用者を常にまだまだ出来る人として可能性を見れる支援者になりたい。
- 相手の気持ちに寄り添わないと不安になり、より孤独感を感じると思います。
- 今までは、それなりに利用者を尊重しながら対応していたつもりであったが、自分なりに振り返ってみると、対等の関係になってしまっている事。その利用者を理解したつもりでも、理解しようとしていなかった事を反省、実感しました。礼儀、尊重の言葉の意味が深いものと思いました。
- いつのまにか、差別化、区別化してしまう・・・職場でも、家庭でも陥りやすい事を実感しました。
- 親もG,Hにいるので、とても複雑な気持ちになりました。自からもそれほど相手を尊重していたかとなると、誘導的な対応だったと感じています。常に利用者に向き合う姿勢をくずすべきではないと感じました。
- 頭では理解出来ているつもりでも、行動が伴っていなかった。慣れあいになっていたと反省するばかりです。
- 高齢者は人生の先輩であり、敬うべき存在である。高齢者のあるべき日常生活を支援する事。
- 今までの自分の関わり方について、改めて振り返ると、反省する点もあったと思いました。分かりやすい言葉、親しみ易さは大事ですが“相手を尊重する”言動を心がけて行きたいと思います。
- 利用者の行動をどうにかしよう、静かにさせようという思いで工夫している。利用者の行動が、何が原因でくり返しているのかを知ろうとしない。別の仕事をやりながらの返事や、説明などきちんと本人と向かい合わず、本人の思いを知る、聞く、見るという事をしていない。自分達のペースに合わせようとしている。これでは混乱させてしまうこ

と大きい。

- 専門職として、もっと認知症という障害を理解した上で、何が必要か、生活の質を高めるための方法を上手に支援して行かないとストレスや、不安を与え、悪化をたどる事になると改めて感じました。その方の尊厳を保持すること、心に意識して行きたいと思いました。
- 利用者の権利がなされてない様に思われました。認知症でも一人の人間だという事を忘れてはいけないと思います。
- 誰にでもごく普通に、たとえ、どのような病気や障害になったとしても、人としての礼儀を持って、関わる必要がある。これは専門職というよりは人としてあたり前の義務だと思います。
- 普通、他人、高齢者に接する時は、どんな言葉づかいをしているのだろうと、思い出し、認知症の高齢者に対しての言葉づかいはどうしていただろう・・・と振り返る事が出来た。
- 1人の人として接する、尊重していく。あいさつや言葉づかいなど。利用者の権利としては、普通に生活する権利がある。困っている事、不安な事、その人の出来る、出来ない事を知って、出来ない事は一緒に行ったりして補って行く。その人がどんな意向があるのか、どう生活したいのかを聞いたり、見たりして行く。疾患の症状を理解し、この人がどの段階の人なのかを確認し合った対応をする。
- その人にとっての”あたり前”の生活とは何かをベースに「利用者が主体となり、利用者理解につながる」支援(ケア)が出来るよう考えて行く事が大切だと感じました。信頼関係が築けるよう、個別性、環境を知り、理解し、自分に置き換え考えられる様になりたいと思いました。
- 生活の場、仕事も慣れて、プロ意識を忘れていた。礼儀と尊重を理解し関われば、利用者は落ち着いて生活出来る。人を大切に対応すると自分も、そう対応してくれる。
- すべての利用者は、自己決定の権利と一人ひとりが独自の人であるという基本的権利を、持っている事を理解したい。利用者一人ひとりの能力、感受性及び信念を尊重することが、大切な事だと思われた。
- 客観的に見ると、沢山気になるが、日常の業務の中で行っていないかとなると、類似行為があるのではないかと考えてしまう。どこかに上下の関係が知らず、知らずに出ている事があると感じた。
- グループホームの現場で働いています。身体的ケアの必要な方や、コミュニケーションの取れやすい方との関わりは蜜になるが、つるさんの方の様な方との関わりは薄くなっています。対処的なケアに先に立ち、本人を入れての話し合いは出来ておらず、本人が何に困っているのかを、見ていなかったように思います。
- ビデオ演習を通し、利用者との関わり方を考えさせられました。礼儀→支援を行っている側の思い込み(介護している)という事が、態度(言葉)に出ていたと思いました。「病気だから」と一言で片付けてはいけないと思いました。

- 難しいテーマだと思いました。あたり前のことなのに、通常、それが出来ているかどうかを振り返ると、日によって、利用者によって、格差がある様に思いました。毎日平常心で取り組みたいと思っていますが、心をフラットにするのは、日々難しいです。
- 気をつけようと思い、対応していても、つい、業務に追われてしまうと、ビデオに出て来た職員のような対応をしている事に気付かされた。
- 普段している事、利用者さんに対しての言葉かけや、行動はいかに大事か。ビデオの中のつるさんは、不安の固まりであると思いました。その不安を取り除く事がビデオの中では出来ていないと思います。ますます、認知が低下して行く様にも感じました。私達介護者がいかに、重要か考えさせられました。
- ビデオ演習を観て、利用者様に対しての対応だったり、利用者様が望んでいる事を考え、グループを通して、とてもいい勉強になりました。利用者様と話し合う時の言葉づかいに、気をつけて行きたいと思った。
- ビデオの中のつるさんは、自事業所にいるYさんです。その方を思いながら、自分の態度はどうか、自分の言葉はどうか、相手はどう感じているのか、どうすれば良いのかなど、頭の中がぐるぐるとした感じです。事業所内で、言葉と態度に注意しようと声をかけ合っているのも、再度振り返る機会になりました。
- 職員の対応に少し問題があるように映像を見て思いました。利用者がどうしたいのか考え、寄り添ってあげられる様にしたいと思います。
- もう一度、利用者さんを昔の記憶から、振り返れる時間を持つ事が必要だと感じた。(趣味や、性格等)。もう少し、覚えて行かなければ(それを自然に出来るように)知識がいくつもあった。知識不足を感じた。
- 行動を止めていたことから、”尊重”で「どうぞ、どうぞ」とただ促す、自由にさせているのはその方にとって、本当に尊重なのか。その方が何を思ってその発言をしているのかを聴いて理解する事や、その方の能力を見た上での声かけの仕方だったり、お手伝いがあるのではないかと思った。話し合いの場に、本人も参加出来るのかなあと思いました。(話せる方であり)
- 客観的に演習内容を見て、：つるさん(本人)の言いたい事、やりたい事、出来ない事等に目を向けず、介護にあたっている気がした。家族でも幼子でもないのに接し方等の対応が礼儀と尊重に反している気がした。認知症の理解不足が一番の要因ではないかと思う。自分も含めて、感じた事。

2. これからの要介護支援にどのように活かしていこうと思われましたか？

- 言葉使いを気を付けようと思います。人生の先輩であると事を意識し全てにおいて教えていただくという姿勢を心がけていきたいと思いました。
- 一人ひとりの人生にきちんと向き合い何をしてもらいたいのか何をするばできるよう

になるのか話合っていきたい。まず一人の人間としてどうあるべきかそこからではないかと思いました。

- 認知症でもそうでなくても、礼儀と尊重を持つことを絶対に関わっていきたいと思えます。自分では気づけず人の事だと気付いたりするので、自分でも振り返りとお互いに話しあえる職場環境でありたいです。
- その人を理解しようとする努力が必要。その人の持っている能力を知り、できる事、できない事を知ったうえで支援に活かせたいと思いました。
- 他人の意見を聞く事で自分の考えになれがでてしまっているのだと感じました。新しい考えを取り入れていく事が必要あると思いました。
- 利用者様がスタッフに敬語を使っている場面が良くあることに気づきました。できることをしっかり全員で見つけようとしていなかったかと思えます。できる事、やりた事反対に苦痛に思っている事、我慢している事等を、個人個人違う事を頭に入れてケアさせていただければと思えます。
- 専門的な目線だけでなく、その人について色々な方向から見て理解できるようにしたいです。認知症があってもなくても当たり前のかかわり方をできるようにしたいです。
- 自分で決められるように理解しやすい、わかりやすい方法で、自分の生き方を選択してほしいと思う。そのためにお手伝いできればと思う。
- どうして？という、行動背景の考える事や、言葉、受容、否定しないようにしたい。
- 人には丁寧に関わる事を心がけていこうと思えます。余裕を持って関わる事が大事と思えます。
- 支援者として、専門職として、どうしてできないのか。どうしたら維持できるかという目標を忘れずに支援していきたいです。
- 一人ひとりにきちんと向き合い、想いを聞くようにする。できる事に着目してチームで関わっていきたい。認知症について知識を深め、マネジメントできるようにしたい。
- 利用者の個別対応する事ができるように、本人のアセスメントや他職種への情報提供を行って行く。
- 行動や言葉を読み取れる、理解できるように接する時間をこれまでより長く持ちたいと思えます。
- 業務をこなす事で利用者への関わりが職員優先になってしまう事があるだろうけれど、対「人」という思いは見失しなわないようにしていきたいし、介護に携わる人すべてが同じように考えていければよいと思う。
- 話し合いをする、一人で考えるとその考え方が当たり前になるのでみんなで考える。答えがすぐ見つからなくても皆で考えていく。
- 常に相手の立場になってその人ができる事できない事をきちんと見る。その人が自分の事の話ができるような関係作り。本人が不利益にならないように自分で決められるようにしたい。

- 認知があってもなくても、相手の立場になり物事を考えられる。一人ひとり対応の仕方は違う、できない事を考えるのではなく、できる事を考えていく。
- つるさんの心の中を知ろうとする事、どの利用者にも必要な事。自分の意識を変えていく。
- 認知症であっても利用者として向き合う事を心がける。
- 利用者の困っている事、師匠を十分に理解していけるように支援していきたい。当事者の事を家族や事業所のみで話すのではなく、当事者と話合って意向を確認できるように支援していく。
- 自立支援、本に主体で支援していけるようにしていきたい。認知症であってもその人らしい生活が送れるようにしていきたい。
- 専門職として介護する側の基本は常に頭の中に入れて、折に触れそれに沿って支援できているか振り返りをおこなっていきたい。
- 本人を見る。個性や能力をしっかり見て聞いて話して、手助けができるようにする。病気や障害の理解をする立場の人が、役割をして携わる事で自立支援ができると思った。どのような態度や話し方をすれば相手に礼儀と尊重の気持ちが伝わるのか意識していくようにしていきたい。気持ちが聞き出せるような関わり方をしていきたい。なかなか会話が成り立たない利用者もいるが、それでも、本人とのコミュニケーションを図る事を諦めないようにしたい。
- 同じような事例があるので自分たちの事業所でよい関わりができるよう勉強したいと思いました。本人の事は本人と話していきたいです。
- 利用者一人ひとり、その方は何ができるのかを考える。礼儀と尊重をしっかり考えていきたいです。
- 安心して過ごせる場所と思ってもらえるように相對していく。本人が分かる言葉ではなし一つひとつの行動を説明していけるようにしたい。
- 何ができて、できないかを一人ひとりをみて相合していきたいと思いました。
- その人のできる事できない事を見極め、その人の能力を生かせるような提案をしていきたい。
- 本人の気持ちではなく、家族主体での支援になっている事を反省しました。本人のいるところで本人の意向をまず聞く事、の基本に立ち返りたいと感じました。提案を押し付けることをしていないか、確認しながら支援していきたいと思います。
- 病気の理解を深め、本人がどう苦しんでいるのかどう不安に思っているか等原因を考えられるよう努めていきたい。礼儀と尊重を忘れずに対応していきたい。ご本人とどう会話していくか、どのような内容から入っていくかコミュニケーションの取り方を工夫していきたい。
- 1の観点は当たり前ですが、初めて知る事ではなく新たな発見でもなく、分かっているけど、、、というレベルのものでは理ましたが、それを聾者の権利、支援者の義務という

言葉にして考えると、義務である以上常に頭に置くよう（甘えなくして）努めなければならぬのではないかと思った。一緒に仕事をする仲間にも早く伝え、明日からのチームの資質向上に役立てたい。

- 生活履歴や細やかに聞きながら、ゆっくり時間をかけて傾聴する、本人を中心に支援していくようにしたい。認知になってもできる事もある事を理解し、できないところを支援する事で、成功体験を積み重ねられる事で、本人の不安をなくしていきたい。
- 支援者として対等な立場をもって適切に支援を行えるようにしていきたい。
- 困った人と見るのではなく、利用者が何に困っているのか考えていきたい。利用者が何を大切にされていると感じてもらえるような対応をできるようにしていきたい。なんでも言える職場になるようにまずは自分から意識を変えていきたい。利用者の事を決めるときには利用者と話し合い、本人がどうしたのか木本を大事にしていきたい。本人ができる事、できない事を考えていく、できない場合はどうすればできるかを考えていきたい。
- 自分の関わりについてよいのか悪いのかを考え、事務所内でも相談しながら本人主体を忘れないようにしていきたい。
- 普通にみる、専門性を向上させる、能力評価をして関わる。
- 私たちケアマネジャーが実際にケアに当たる方々から情報を得るときにこれらのヒントを基にアセスメントできればと思いました。
- 利用者の目を見てわかりやすいように話していく事。ご本人のできるところを見る。本人の大変さをわかろうとする。
- 自らの取り組み姿勢を改めると共に、職場の中で全ての職員で研修をしたいと思います。
- 本人主体で向き合い、行えることを探しながら自立した生活をできるように支援していきたいと思います。
- 忙しかったり、余裕がなくなっていたりすると、どうしても自分の都合や感情でしかいる事ができなくなるが、できない事ばかりを見られてダメな人、困った人ととらえるのではなく、病気があっても障害があってもできるところはたくさんあるとみるようにしたい。
- 本人が何で荘なるのか原因を考え（能力を評価したうえで）本人が大切にされていると感じられたるかかわり方ができるよう意識し続けたい。
- 相手の事を理解しようとする努力する事から始め、私たちの作ったプランにより能力が発揮できる、自己決定ができる、当たり前のような支援を心掛けたいと思います。
- 問題行動と捉えられがちなご本人からのメッセージを読み取り、ストレスや負担が少なく過ごせるよう支援していきたいと思う。できること、できなこと、その方を理解する。

- 一人ひとり障がいが違う。またこれまで大切にしてきた事も違う。高齢となり様々できない事が増えてきたとしても、本人と話しをし今後どのような生活を送りたいかを把握し支援していきたいと思います。
- 本人の立場に立った声掛けや関わり方を改めて考えていきたい。本人が不安に感じている事を常に考え、少しでも取り除けたらという気持ちを持って接していきたい。
- 認知症がある、ないに関わらず、当たり前前理前の事を当たり前できるように支援していきたい。
- 礼儀と尊重を意識して接したいと思います。
- 困っている家族にも目は向けますが、一番困っているのは本人なのでケアマネとしての役割を伝え理解していただきながら、本人の望む生活が思いに寄り添っていければと思います。
- 自分はいざばらく勉強をしていないので、まず病気について学ぶ機会をつりたいと思いました。
- 本人の言葉、気持ちを理解し支援していきたい。認知があってもなくても決めるのは本人。より良い方法を少しでも探っていけるように。
- 常に利用者にとって何が必要なのか専門的に見ていけたらと思う。できる事、できない事を本人考え本人に選択してもらう。
- 専門職として生活の質を高めるにはどのような方法をとっていくかを判断できるようにしてポイントを把握していく。
- 本人の事は本人と相談して決める。本人にわかるように説明する責任、本人の不利益とならないように自己決定できるようにしたい。当たり前に関わっていきたい。
- 定期的に自分の関わり、考え方を見直しご利用者の権利を書く対応はしていないかと、自分や仲間と振り返りながら、引き続きその人の事はその人と話し合うを大切にしていく。今日の学びを他のスタッフに伝え、ひとりでも多くのスタッフとよりよい関わりを目指していきたい。
- これからケアマネとして新しい道を歩みたい（ケアマネより看護師が35年間）。よく基本情報を得てその人（つるさんの場合も）に似合った日常生活を送っていただく。看護視点を生かし、誤嚥性肺炎など（肺、心臓の悪化予防をしたい）介護現場での職員の目標はできるだけニーズ、ケアプランが合っていると良いと考えるのは私だけでしょうか。
- 利用者さんとの話は目を見て向きあって、しっかりと聞く態度対応が必要と思うので、引きつづき礼儀と尊重を考えて対応して行きます。
- より耳を傾け、お話を聞くようにしたい。また、意向をうまく引き出せるように工夫していきたい。
- 一人ひとりにきちんと向き合い、話を聞く事、問題行動と捉えられている事は実はその人の目線ではない事で問題行動といわれてる事はその人が何を探し、何をしたいのか

きちんと探究していきたいと思いました。

- 介護の流れや介護者の視点ではなく、利用者視点でケアを行っていくという基本的な考えが改めて大切なことだと感じました。職員の中には、やはり「指示がいない」という言葉を使う方もいる為、それが正しい事と思って使っているのか、それとも他の人が使っているのをマネているのか、そのあたりから話を聞いてみたいと思います。
- ケアマネジャーの仕事にたずさわっています。病気等で生活の支障のある方に対し、可能な限りのあたり前の生活と住みなれた自宅で生活の継続が出来るように支援したいです。時に介護する側、受ける側が同等の立場で話し合いができるようにしていきたいです。
- あたり前のことをあたり前に・・・はむずかしいが出来ることをよくさがすようにしたい。
- 本人への意向確認を、改めて意識していきたい。対等な関係を築けるよう努めていきたい。「認知」に関する手引きを参考に、認知症の細かい部分まで理解し、ケアで表現できるようにしたい。
- 個人でできる事は少ないですが、自分から礼節のある態度を取る事で良い支援につながられればと思います。
- その人を知ることには力を入れていきます。できること、できていることを見ていきます。
- 支援をするためには、その人の障害や能力の理解がまず必要となり何がそのような行動をするのか原因が分からないとどのように支援すればその人のストレスや負担にならず生活の質を高められるのか？自分1人ではなく関わるチームで話し合っていければと思います。
- 利用者様を尊重した支援をするには、その方を理解する事が大事。今の状態（生活の支障や原因疾病等）を把握する他、生活歴も把握して支援していきたい。話し合いの場には必ず本人も含める。話を理解しにくい方にはどうしたら伝わり易いか、聞きだせるかを工夫して本人の意向を大事にした支援をしたい。
- 事例を見て、最初は介護者スタッフ大変だろうと感じてしまいました。本当に大変なのは、いろんな事、生活全般に困っている本人、落ち着かず、どうして良いかわからず、さぞ不安な毎日を過ごしていると思いました。利用者さん目線で考え出来る事は何か、前向きに考えられる様に対応していきたいと思いました。
- もっと、当事者を理解できるよう努力して行きたい。困っていることは何か？を聞き出せる関わりも大切である。当事者がいる前で、今後の事を相談して行けるように関わって行きたい。
- 常に、問題として捉えるのではなく、「なぜ」「どうして」「どうしたら」という気持ちを持って支援していこうと思います。
- 礼儀と尊重を持って関わり合いを持つこと。その人とよく話し合うこと。その人を理解しようと努力すること。その人の出来ることはどんな事なのか？出来ない事は何が原

困で出来ないのか？認知症のどのような症状で出来ないのか？その人が負担なく行えるように、どのように補ってあげればいいのか？を考えていきたいです。

- 本人、周りの人（Fa・職員）自分とそれぞれに考え方、ものさしが違うことを頭に入れて、本人の生活がしやすい、できる環境がつかれるようにしたいと思った。相手を知ることから始めたいと思う。
- 本人の思いをわかってあげる。全部でなくても、寄り添うことで1つ1つわかってあげて、支援関わる関係者と一緒に同じ思いにできたら嬉しい。とても難しい場面が多いですがそのような姿勢をして行きたいと思う。
- 上記、出来る事に目を向け、一部分でも自分で行えるようにすることで、安心したり、達成感を感じたりしてもらうことができれば、居心地よく生活できるよう、本人に合った関わり方や環境を考えていきたい。
- 利用者が困った行動をしていることを確認したら、困らない行動をしないように職員間で情報を共有し同じ対応が出来るようにカンファレンスを行う。原因を追究し、目先のことだけではなく本人を見て行くことを課題検討の手引きに沿って検討し、対策をたてていきたい。何が分かって、何が出来るのか、本人が何をやりたいのかをきちんとアセスメントし出来ることを継続するように支援していきたい。本人の能力に応じた役割を与えて実行させるよう良い関係作りをしていかなければならない。
- 病気への理解、尊重されるべき存在だということを常に意識して接することが大事だと再認識しました。無意識に世話をする方とされる方と分けていたところがあったので反省しつつ、利用者さんに接していきたいです。
- 支援者としては、より専門性を深め関わる必要があると思った。家族の意見に振り回されず、しっかりと本人を見るようにして利用者本人と話し合っていきます。
- 利用者の支障になっている事の原因をしっかりと考えて、利用者本人に分かりやすく説明し、話をしていかないと・・・と感じました。
- 認知症の人として、問題行動に捉われがちになるんですが、その人を見て、その人と話し合ってどういう事を望むのかを一緒に考えていきたい。
- 利用者主体、利用者が困っている事を主眼におく事。職員の権利は分かるが自分達の仕事、糧としての対象者を理解する事で利用者の理解尊厳は守られる。
- 本人の話をしっかりと聴くことから始めようと思います。
- 敬意を持って接すること。本人と向き合うこと、尊重するように、話をしていこうと思います。
- 本人中心で考えていくことは、自分自身にも置き換えて考えていくことが大切で「本来どうあるべきなのか」常に考えて意識すること。
- ビデオでは忙しい仕事の中で、利用者ちゃんと向き合うことが出来ていない事がよく分かったので、時間をとってちゃんと向き合うことを大事にしたいと思いました。
- カンファレンス等、支援者側の視点をもって介入していることが多い。改めて、利用者

側の視点でその人が生活の支障が何であるかを考えて介入していきたい。

- 認知症の対応について、分かっていると思っても「現場だったら」が、つるさんのビデオで感じた。本人を含めた話し合い、忘れてしまうとしても、分かることも、出来る事もたくさんあり、気持ちよく日常生活が送れるよう支援していく。
- 一緒に寄り添い、できることを経過みて分析し、できることの役割作りをしていきたい。
- 認知症の方は何も分からない、出来ない訳ではない。その方の脳力をきちんと見る。(出来る事、出来ない事を分かる) その上で、その方の日常生活が不安なく出来るように支援していきたい。本人の自己決定に基づく支援が行えるよう努めたい。補うだけではない。
- 上記のことを、今日から活かしていきたいと思います。
- 人生を自分より長く経験している一人の人として接していきたいです。
- 否定するのではなく肯定し、要介護者が自由に発言できる場を作ることが、出来るようにしたい。近くで目を見て話す。本人のことを分かってあげる。
- 初心に戻り、言葉づかいに注意しようと思いました。見本となれる様にする事が無言のメッセージになると思った。
- 利用者様の分かりやすく、理解しやすい言葉で、説明を行う。利用者様の集中できるタイミング、環境も考える。ストレスや負担にならない様に言っていく。
- 本人の近くにおいて、見て話をして行こうと思いました。本人が答えやすい、話しやすい関わり方ができるよう努力していきたいと思います。
- 負担やストレスにならないよう、利用者本人を病気、障害も含めて理解し、出来る事を続けられるような支援をして行きたい。
- 出来る事、出来ない事を理解して、出来る事を今後も続けられるように関わりたい。認知症の方には、安心してもらえるような対応ができるように心がけたい。(なかなか難しいと思いますが・・・)
- 居宅のケアマネは施設利用までの間、担当します。本人にまつわる生活習慣や、好きなこと、残されている能力をしっかり観察し、施設側に伝えていきたいと思います。
- 一人一人感情は保たれているし、何も分からなくなった訳ではない。本人が本人らしく生活できる様な支援につなげて行きたい。
- 認知症がある利用者に対して、本人の望む安心した生活が送れるように心がけて、支援して行きたいと思います。本人を知る(認知症になる前も)事が、支援にあたって大切である。
- 本人がどうしたいのかを考えて来たつもりだったが、無意識で尊重できていなかったり、権利を無視している事を学び、日々意識して行きたいと思いました。また、現場の職員にもセミナーの内容を伝えていきたい(伝える工夫)と思います。
- その人が出来ること、出来ないことを正しく把握しなければいけないので、その人の話をよく聞こうと思いました。

- 利用者本位という言葉だけの理解ではなく、実践の中でゆっくり丁寧に相手の能力（理解力）に合わせた対応を心がけて行きたい。
- 認知症の理解を深めるために、事例を学ぶ。出来ない視点だけでなく、出来る事を見ることが大切。
- 出来ない事を見るのも大事ですが、出来る事、分かる事を見ることも大切。どうすれば分かるか、出来るようになるのかを教えていけるようにしたい。
- ①その人の能力をきちんと把握出来るように努力する事。①を実行した上で本人に向き合い、本人と話すこと。
- 利用者の生活歴を知ることから、もう一度やってみて、出来る事、出来ない事を見極め、自宅での生活が維持出来るように支援して行きたい。利用者ときちんと向き合う事に努めて行きたい。
- 利用者の権利について考え、自己決定出来るように、アプローチ方法を1人1人に合った対応をして行かなければいけないと感じた。また、現場で働いている方にも伝えて行きたいと思う。
- 言葉の理解が出来なくなって来ても、自己決定能力が無くなって来ても、その人がもともとどういう思いを持っているのか、普段の関わりで理解してケアに活かす事が出来ればと思う。
- 出来る限り、本人と話し、本人を理解して、生活できる様にして行きたいと思います。また、サービス事業所の方やFaにも理解できるように伝えていきたいです。
- 本人の疾病や行動をみて、その原因が何かを判断し、困らずにあたり前の（本人が望んでいる）生活が出来るようにして行きたい。
- 本人にきちんと向き合うこと、大切にしていきたい。経験から判断せず、分かったふりをしない。
- 「礼儀」「尊重」を常に忘れないよう意識して行きたい。その人の能力をきちんと見れるようにしたい。
- 尊重していくという事を、多くの介護従事者に分かってもらえる様、働きかけて行きたいと思います。
- もっと本人の気持ちを尊重していきたい。忙しい事を理由にせずゆっくり向き合わなければと思う。
- 「その人のことはその人と話し合っ決めて」という事を忘れていた様な気がする。もっと本人を分かろうとする態度で接して行こうと思う。
- 事例を通して改めて、スタッフ側としての対応の仕方、利用者を交えた話し合いの持つ事が必要と思い、今後は障害があっても、分からなくても、その人を見て話し合って行きたいと思いました。分かりやすく説明して行きたいです。
- 認知症の有無に関わらず、でも認知症の生活障害がある方なら特に、その方の置かれている状態を見るアセスメント力を高めたい。なぜなら、その為の専門職だから。

- 認知症があっても、なくても、普通に支援出来るように活かしていきたい。
- まず、困っている本人の事を中心に、原因と能力評価をした上で、適切な対応をして行きたいと思った。
- お客様扱いするのでも、バカにするのでもなく、あたり前の事を、あたり前に出来る支援をしたいと思いました。
- 自立した対象者への基本の基を念頭にして対応する。
- 実際の場面はないので、アドバイス等をする時に活用していきたい。
- 相手の意思や希望を尊重するためにも、十分に話し合いを行って行きたいと思います。
- 利用者の問題行動、障害の程度の理解を深めて、他の職員にも伝達して少しずつでも自分達が出来る事から、実行に移していきたいと思います。
- 相手を理解し、大切に努力を続けたいと思います。(認知症があってもなくても)
- 自分がしてほしいように尊重されていると感じている、対応を考えていきたいと思えます。また、医学的、身体的根拠を自分の中で整理していきたいと思えます。
- その人を尊重し理解していく。寄り添える一番の理解者になっていきたい。個人として頑張るのではなくチームとして関わり、支援していきたい。
- 要介護高齢者は生きる権利があり、我々介護従事者は支援する義務がある。放置や後回しにする事なく、高齢者の尊厳を尊重し、敬意を持って関わる。
- 改めて、“その人”をみる事の大切さを感じました。どんな認知症状があるのか、どんな人生、生活をしてきたのかを知る事で、関わり方は大きく変わるので、まず、本人を知る事から始めて行きたいと思えます。
- 本人の行動には意味があると言う事を理解し、障害だから・・・と考えるのではなく、その障害をどのように補うことが本人にとって良い事なのかを考えていく。本人と向かい合い話しをしていく。本人に聞くという事をして行きたい。
- 言葉づかいの大切さ、話し合う時間が持てるよう心がけて、機能状態を維持し、最小限な低下になるよう意識して行きたいと思いました。
- 思いやりを持ち、傾聴して行く介護にしたいと思えます。利用者様のストレスにならない様に出来る事をお願いして行きたい。
- まず、本人の立場に立って、本人のことを理解しようとする事。本人を理解しようとする事があたり前になる事。
- もっとゆっくり、その人が思っていること、伝えたいことを感じとる能力を身に付けて行きたい。安心してもらえる関わりをして行きたい。
- 出来る事、出来ない事を分かる。なぜ、その様な行動になっているのかを考え、スタッフと話し合っって関わり方を本人の立場で、統一して関わっていく。疾患を理解する。その人の思いに寄り添い、目を見て話を傾聴していく。
- 普段から意識して、きちんと顔を合わせ、(目線を合わせる)本人を見て、本人の話を聞く(聴く)ように心がけたいと思いました。

- 専門性をいかす、普段からの関わりで信頼関係を築く、その人の能力を維持できる所を伸ばし、補うケア、何が困っているか、生活の不具合を理解する。
- 何がどう出来なくて、困っているかを理解して、その出来ない事が出来るように支援したい。
- 日々の中で、当事者の気持ちに立って、物事を検討する。誰の為の何の支援が説明できる。
- 本人の困っている事や、本人の思いを聴き、本人にとっての普通の生活が継続できるように支援して行きたいです。
- もう一度、支援を行う際、利用者の思いや、気持ちを考え「今、何をしたいのか」「何を手助け出来るか」等を思い、その一人一人に寄り添う支援を行っていきたいと思いました。
- 業務をこなす仕事から、利用者と向き合う仕事を心がけます。
- 利用者様の日々の状況を見ながら、出来る事と出来ない事を見極めて、対応して行きたい。
- まず、利用者さんの身体状況など、よく把握して、認知機能もどのくらいか、話を、コミュニケーションを大切に、しぐさや、動作なども見逃さずに観察して行きたい。出来る事、出来ない事を見極めて、サービスを提供したいと思いました。
- 困っている人を困った扱いにしないで、職員（専門職）間で、話し合ったり、利用者様との話す時間を作って行きたいと思いました。そして利用者様は、今、何を望んでいるのかや、目的や生活を知る必要があると思いました。
- 自分の事として捉え、いずれ自分が、何らかの生活上の支障が出たときに、どうして欲しいのかを、考えながら、今、目の前にいる方達と向き合っていきたい。あたり前の生活が送れるように、福祉の道を進んで行きたい。
- 認知症があっても自分で出来る事はたくさんあると思うので、手伝える事で、その人の出来る事が増えるよう支援したいと思います。
- どうしても時間に追われてしまうと、対応の仕方も、分かっている、おろそかになりがちになってしまう所があると、自分で感じる所もあり、そういう場合、後々になってから、後悔する事が多かった様に思う。一人一人、個人として、何が今どういった対応、提供が必要なのか、考えながら努めていきたい。
- その行動をせざるを得ない状況となっている背景をしっかりと考える事。どこまで出来る部分があるのかを、こちらが理解する事が大事であると思った。
- 礼儀と尊重を念頭に置き：専門職としてのサービス、利用者様に耳を傾け思いを汲み取る。その人を理解し(一人一人)利用者様主体となり、サービス提供につなげていきたい。

3. その他、思ったこと感じたこと

- 寄り添い話を聞くという事が大切だと感じました。
- アドボカシー、BPSDと先生が言わなかったことに簡単に専門用語で片づけてもらいたくない先生の気持ちがわかりました。
- ビデオを観て本当に似たような日常がある事なのではないかと思いました。このように礼儀と尊敬を再認識を持つ機会があってこれからは活かせます。
- このような研修で振り返りができて良かったと思います。
- 介護職を始めた時に思った事、忘れていたと思います。ハッとしました。とても考えさせられた研修でしたので、職場でも活用できればと思います。ありがとうございました。
- 100%本人の意になかった生活が無理だとしても、理想、目標は高く持って一つずつクリアしていく事。
- 1でも書きましたが、建前的にはその人に合った対応をと思いますが、実際の人で不足の現場では優しくしたくてもできない現状もあるのではないのでしょうか？介護現場の人手不足、どのようにしたら改善するのでしょうか？
- 慣れることなく、常に新しい気持ちで関わっていきたいと思う。
- つるさんを通して自分のケアの振り返りができた。
- カンファレンスの回数を増やし、その人を知る機会を持っていく必要あり。
- 新しい知識も取り入れなくてはいけないが、心は所信の気持ちを忘れずにいきたいと思います。
- 最近も虐待のニュースがあったばかり、繰り返し学ぶ機会を持つことが大切だと思います。
- 日々の業務で特に意識しないでいた事。周り、家族優先もあったかも。本人の為の介護保険でありその人を見る再度確認した。
- 数日前施設をでて、自宅に向けて歩いている利用者を見かけ、声掛けすると「ゆっくり便がしたくて家さ歩いているのよ」と言われ、今までは徘徊みたいな考え方だったが、やはり意味があって行動していると思った。
- 難しいことではない。研修を重ねるたびに意識付けられてきている。認知症を理解する。あってもなくても本当は関係ない、事です。
- 認知症の利用者へのかかわり方について考えさせられました。問題行動が内容にするには、という方向で考えていたのですが、理解する事が大切であると思いました。
- 慣れによって感覚が麻痺して行っているような介護の現場に、きちんと考え、いけんを述べられるような提案をしていきたい。
- 施設の中に生活拠点が移ったことに本人にとって大変なことであり周りのスタッフが本人の大変さを理解してあげないと本人にとっては地獄の毎日だ。わかってもらえる、手助けしてもらえる、安心して過ごせる支援をスタッフと共に学んでいきたいし、スタッフにも理解してもらえるような働きかけができる自分になりたいと思った。

- 実際の施設の様子を観て、こんな風に接したらダメだなとか、こういう風に伝えたらいいのかとを感じる事ができた。普段の自分の態度を第三者に見られたときに気を付けなければと思った。
- 認知症に関わらず自分の関わりがちゃんとできているか振り返りながら仕事をしていきたいと思います。当たり前の事が当たり前できるように周りの人にもわかってもらえるといいです。
- 本人の不安感を理解していないのではないか。業務の忙しさはわかるが安心できる場所と理解するまで相対してはどうか。
- 頭は若くやわらか、変だと思いながら仕事していこうと思います。
- 自分が認知症になった時こんなに不安なんだと少し怖くなりました。いい介護を受けたいです。
- ありがとうございます。
- 認知症は誰でもなり得る病気であることの理解が地域住民や家族等にも理解ができていない。地域で見守りしたり、少しの支援がある事で在宅生活が継続できる場合もあるので、認知症についての正しい知識を、介護事業所のスタッフにも理解を広げていければと思う。
- その方の居ないところで話を進めずお話を伺いながら、いい対応ができるように心掛けていきたい。
- つるさんのビデオを観て思った事は否定する訳ではないが、目線を合わせて話をする、本人が訴えたい事に耳を傾ける（分からなくても理解する努力）、自分が忙しいようにしない、そういう事が大切だと考えました。自分たちが行なっている支援について反省する部分もあると思いました。
- 他の参加者と意見交換ができて良かった。振り返る事大切と感じた。
- お金を払ってサービスを利用している利用者様。仕事として関わっている以上、ご本人の意見を尊重して関わらせていただくよう行いたいと思います。研修に参加したことで改めて気づかされたので今後も研修へ参加しようと思います。ありがとうございました。
- 常に基本に立ち戻り、確認を繰り返しおこなう事が大切だと感じました。
- とてもよい研修でした。
- ケアマネジャーも含め、一人の方に接するケアがその人に関わる全ての職種が、同じような考えを持って関われるようになるといいと思った。
- 本人の事をスタッフ間でいくら話し合ったとしても、本人の障がいやその原因をわかったうえで本人も一緒に話し合わなければ本人の為の話しあいにはならないと感じた。
- 若い頭と心を持てるよう、持ち続ける事ができるようにしながら仕事をしていきたいと思いました。自宅で暮らす事が困難になった利用者さんをグループホームへの入所を家族が決め入所したケースがありました。このビデオのようになっていない事を

祈るばかりです。施設選びも外観ばかりではなく、スタッフの質を見極める気持ちを持ちたいと思いました。

- 施設の場合は特に関わるスタッフ視点となりやすい、どこで生活するにしてもこれまでの生活が続けられる事が大切と思った。
- 認知症の理解は一人ひとり利用者によって表れ方も違い、難しいと感じているが知識不足と共に、相手を尊重するという心掛けにも不足していた。当たり前のようになっていた接し方の本人の尊重いう部分が欠けていた事がとても怖い。
- いつも「セミナー等に出る」事が目的になってしまっていたが、今日はセミナーの内容を皆に伝えたいと強く思った。
- 認知障害利用者の一人ひとりに今日の研修を活かしていきたいと思います。
- 業界の中にいると慣れが一番怖いと感じました。今日のセミナーで学んだ事を頭に入れながら明日からの仕事に活かし権利を持った高齢者の支援をしていきたいと思います。
- 施設の棟（一般棟、専門棟）によって目線の見方が違う事を改めて実感しました。
- 常に振り返り、基本となる事、考える事が大切だと改めて感じました。
- ケアマネジメントとはまた違うそれぞれの思いを聞いて話合える研修良かったです。
- 自分が年を取り施設に入る事になったら居心地のよい施設に入りたいと思った。来てよかったです。
- 上記 1.2 を振り返り、自身のチェックする。また介護福祉士さんや介護職員も頑張っていますよ。ただ A 生活の質を高める B 機能を維持する C 尊厳を保持は今後も意識すべきであろうと考えます。
- つるさんのビデオを見ると、つるさんがわざと混乱する様な対応をスタッフがしていた様に見えた。
- 職場で本日の事は伝達研修したい。
- 認知症という病気になっても感情はあるし、誰が自分の見方できちんと話を聞いてくれる人がわかると思うので不安な時にわかってくれる存在でありたいと感じました。
- もっと色々なことを学び、考えを深めていかなければならないと感じました。またこういった勉強会がありましたら、是非参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- 利用者様とのつきあいが長くなると、どうしても馴れ合い・・・のような関わりになりがちですが、「礼儀と尊重」を意識して携わりたいと思いました。
- 今日のテーマ、認知症があってもなくても、対象となる方 1 人 1 人みな違うので、その人をきちんとみて何ができて、何ができなくて困っているのか何を手伝えれば出来るのかという事を改めて思った。とても良い研修会でした。
- グループワークを通し、自分とはまた違った視点で演習を理解することができ良かった。

- 利用者の視点で考えることが大切だと思いました。
- 振り返りが必要です、3日で忘れないようにしなければ！
- 何年この仕事をして、今だに失敗もあり、落ち込むことも多かったが、失敗から学んだことを生かしていきたいと思った。
- 居宅CMです。認知症により {困っていると1通所施設、2有料老人ホームからうける事があり対応できない。} その対応に悩む事があります。きちんと説明できる様になりたいと思います。このような研修に参加できて良かったです。
- 研修に参加し、自分のできる処、できなかつた処を自分なりに評価できる自分でありたい。いつか、私も当事者となる事を考えて接して行きたい。専門職として、恥じないような対応して行きたい。
- 自分自身も年を重ね、体の変化を感じながら過ごしています。自分だったら「～してもらいたい」「～されたら嬉しいな」ということを実行していきたいと思いました。
- 自分の役割、専門性の振り返りになりました。
- 普通のことであり、自分が安心して、年を老いても生活、支援を受ける側になっても、自分のことを思って分かろうとする人たちがいたら、とても心強いと思います。
- 自分は正しいと思わず、あたり前のことが出来ているか？このように振り返る機会は大切だと感じた。
- 他のケアマネジャーと同じ事例を通じて、学びが出来て良かったと思います。仕事を楽しくできるように頑張ります。
- 施設で、つるさんの話をよく聞いて、対応してその後どうなったのかなど、心身の変化を知りたいと思いました。事業所、本人、全体で取り組むべき課題だと思いました。
- 対人援助技術は難しいし、深いなあと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- その人の能力評価、その人に合った対応を心がけ、当事者本人と話し合いをしていきたいです。
- 生活歴、以前獲得していた物事、以前できていた事は何か？その理解で対応を変える。昔から認知症の方などいない、尊重する上で一番大切な事。
- どれだけ学んでも、自分自身に身に付けて、実践に活かしていかないといけないなと思いました。
- より良い関わりをしてきたと思っていましたが、やはり振り返ると本人の話を聞いていたか、能力を（出来ること、出来ないこと）など、見ていたか等、まだまだ不十分な事も多いと感じました。良き理解者にもなれるようにして行きたいと思います。
- 見えない上下関係をいつからか持ってしまい、それで良いと思つたまま、正す機会もなく、今日まで来ていることは、変えていく必要を感じ、またそれを研修で伝えていく義務もあると思う。
- 介護の現場にも伝えていきたいと思いました。

- 日々の仕事の中で、不満を言うことも多くなっている。ほめあい、3倍になってかえってこないように考えたい。
- ビデオの続きが見たかった。どこで入手できる動画なのか知りたい。
- 利用者だけではなく、同僚や他職種のスタッフにも当てはまる。その方の能力や職種、専門性など、その方を見てきちんと話し合っていけば、利用者の生活の質向上のため、チームで良い関わりが出来ると思うし、今日から活かしていきたいと思います。
- 今日の研修は、ぜひ施設系サービスの現場の職員に参加をしてもらいたい。・・・が、あえて現場の声をあげると、人手不足で研修どころではないと言われそうです。
- 認知症の方と関わるうえで、知識を深めていきたい。
- つるさんのお話をもっと聞いてあげられると良いと思った。どの施設でも分かっている事ではあるけど、日々の業務に追われ、一緒に隣に座っておしゃべりする時間は「難しいだろう」と思います。
- 自分たち支援者側の感じたことだけでなく、利用者様にとって、何が一番なのかを提案していく事が大切であり、利用者様と話し合って決められる状況や環境を作ることが大切と思いました。
- 感情は直に伝わると思います。常に、礼儀、尊重を忘れずに、丁寧に対応して行けるよう、業務にあたろうと思いました。慣れはこわいと感じました。
- 話しをする技術を磨くことは大変困難です。日々の職場内での対話から気をつけて行きたいと思います。～働きやすい環境はきっと、利用者還元されると信じて～
- 全スタッフに今日の事を伝えられる様にして行き、本人としっかり向き合えるスタッフになってもらいたいと思いました。
- 認知症になっても本人には、思いや、気持ちがある事を忘れてはいけないと思います。
- 研修を受ける度に反省しています。慣れてしまわない様、研修等に参加して行きたいと思います。
- 支援者として関わる場合には、認知症になった状態で初めて会うことになるので、認知症があるということが印象に残るが、その人について、様々な視点から理解する必要がある。
- 研修を受ける度に、あたり前のことを気づかされる。
- 高齢になることの想像や、大切に思う感性、冷静、対応できる経験を積みたいと思います。
- あたり前になると、自分の言葉、行動に疑問を持たなくなるので、介護職員にも、是非受けてもらいたい研修内容だと思いました。
- 頭で分かっているつもりでも、行動にどの程度移せているのか？日々、業務を振り返り、“ふつうに関わること”を心がけたいものです。
- 普段の業務の一連の流れで過ごしていたので、今日の研修は自分の仕事の振り返りの機会となりました。時間、曜日も良かったです。(遠くから来たので・・・)

- つるさんの事例を見て、現在自施設で抱えている問題に近いものがあった。今日、感じたものを現場に伝え、より良いケアに活かしていければと思う。
- ケアマネより、実際のケアにあたっている人に聞いてもらいたいと思った。こういう施設は今でもあります。会場が狭くて暑かったです。次からもうちょっと広い所で開催していただきたいです。
- ビデオの中の事は、一般的に普通に行われている事だと思うと怖くなった。
- ビデオを見て、施設のあたり前が見えた。福祉の仕事について施設実習に行った時、いやだ！！と感じた事思い出しました。ヘルパーでおとなしかった人が（高卒）辞めて施設で働くようになった。ある時、施設で対応している様子を見て、がっかりした事思い出しました。
- 在宅の人も姓で呼んだ方がいいのだろうか、家族全員同じ姓だから、名前で本人と家族を区別しているけれども・・・。グループホームのスタッフが忙しすぎるのだろうか・・・？
- ビデオを見せていただき、声がけについて改めて考えさせられました。
- 映像を見て、よく見る光景だと感じた。それが普通のことになってはいけないのだと。自分だけでなく、一緒に働いている人にも伝えていきたい。
- 礼儀や尊重というのは言葉使いだけでなく、挨拶やマナー、身だしなみ等もあてはまるのだと言う事に改めて気づいた。認知症になっても自分の事は自分で決められる様に支援して行ける様にならなくてはと思った。
- 今後、認知症の利用者は増えていくと思います。対応するスタッフ側も戸惑い、どう接していいか迷う場合が多いと思います。研修を通して考える事が今後にも必要と思いました。
- ご講義、ありがとうございました。
- 常に気づきが出来るようにして行かないと、いけないと改めて思いました。
- 本日のような研修を通して、振りかえる必要性を感じた。
- 相手を知らないと、ちゃんとした支援は出来ないと改めて実感することが出来ました。また、演習中に感じていたつるさんと、最後に観たつるさんは違うように感じました。最後に観た方のスタッフの対応も最初に感じたイメージと変わりました。改めて、礼儀と尊重について、考える事が出来ました。
- 対応不足と問題行動に関連に理解して、行動の理由を常に想像する、出来る自分でありたい。
- 普通の理解は難しい。
- 相手は我々の話し言葉を理解していると思いますので、十分に注意して対応して行こうと思います。
- 専門性をもった利用者との関わりをより考えて行きたいと思いました。グループワークの中で、他の人の意見など聞けたことは大変参考になりました。

- 自身の支援のあり方を振り返る良い機会となりました。ありがとうございました。
- 本日も大変勉強になりました。
- 初心に戻り今後の支援をして行きたい。他施設等の方々との話し合いをすると勉強になりました。
- 契約における対等な立場を勘違いしている人が多くいる。先輩に対し、ため口はきけないはずである。
- 自分で考えることは大事ですが、先輩等に相談してより良い方法を考えて行きたいと思います。
- ビデオを見て、このような状況はどこでもあたり前にやられていること・・・と見てしまう事が残念。
- 色々経験して、認知症の障害の理解をして行きたいと思います。
- 何をしたいのか、どうしたいのか傾聴したいと思います。
- 本人の思いを感じとる事は大変難しいが、少しでも思いが聞ける様、日々基本に立ちかえるようにしなければと思います。偏った思考に陥らないようにする事が大事だと思います。
- 何気なく普段、接している自分を客観的に振り返ることが出来た。さまざまな認知機能の低下により、支障がおきている事を捕らえながら接して行きたいと感じた。
- 認知症の方との関わり方を理解しているつもりであるが、自身の余裕がなくなると雑になってしまう事がある→自身の心身の管理も必要であると感じた。
- 感情は残っている、前に嫌なことされている事を覚えている。認知者の利用者は何も出来ないわけではない。認知症の方に出来ない事を無理にさせるのは負担、ストレス→認知進行、落ち着いて生活する事は出来る事をさせること。まだまだ利用者が問題行動と思っている。業務に追われて利用者話を聴けていなく、余計、利用者を落ち着けない環境にさせていた。
- 今回の事例を通して、いかに、その人を理解して、尊重するか等、改めて振り返る事が出来た。その人を抜きに、話し合いをしてしまっていたこと等、気付かされた。
- 居心地の良い空間の提供を心がける事。生きていて良かったと思える対応を心がける。
- ビデオを観た時と、動画からの逐語録では印象が違う感じを受けた。頭では分かっている、現場になると先入観や、対処になっている事を実感しました。本人一人一人を見て行きたいと思いました。
- 今回、参加された方々が、ケアマネジャーや介護職員等なのか、グループワークの際、現場との考えや思いが、少し違う所もあったように思いました。
- 本日はCMの代わりに参加させて頂きましたが、とても勉強になりました。ホームの職員で共有したいと思います。
- 一つ一つの行動にも、理由がある事を理解していきたい。
- ケアマネではありませんが、勉強になるかと思い参加しました。気付きはとても大事、

初心に戻る事も大事だと感じました。

- 認知症に対しての知識が必要なので、今後に向けて勉強して行きたいと思った。
- 小湊先生の話聞くたび、初心に戻ります。グループワークは有意義でした。とても良いメンバーでした。
- 色々な事業所の方々との意見交換を、今後の現場に活かしていきたい。
- 演習内容では、職員の対応の甘さばかりが目立って見えた。実際、自分も同様な事（言動等）をしていた事に気がついた。日々、自分を見つめ直し、礼儀と尊重、利用者の権利を守っていこうと思った。参加出来て良かったです。有難うございました。